教育学学位プログラム（博士後期課程）
Doctoral Program in Education

授与する学位の名称	博士（教育学）〔Doctor of Philosophy in Education〕	
人材養成目的	社会の急激な変化のもと対応を迫られる教育の具体的課題と、地球的視野をもって解決されるべき教育の本質的課題のそれぞれについて、教育学の幅広い学問的知見を基盤として的確な研究方法をもって追究し、独創的な研究成果を国内外に向けて発信し、政策と実践の改革を国際的に先導することのできる教育学研究者ならびに高度専門職業人を養成することを目的とする。	
養成する人材像	・修了者は、国内外の教育系大学・学部・教育研究機関で教育学の教育研究に従事するとともに、各専門分野の学会活動をリードすることのできる人材である。また、国際学会や国際機関等において教育学研究の最新成果について積極的に発信し研究交流することができる人材である。 ・研究実績を生かして国内および海外における国・地方自治体・関係組織等の教育政策の策定・実施および学校教職員・教育行政・民間組織等の職能開発に対して貢献できる人材である。	
修了後の進路	修了後の進路は、国内外の教育系大学・学部および教育研究機関の研究者、国際的な機関における教育学研究者、開発途上国等における国際協力の場で日本の教育経験及び教育学の知見に基づいて貢献する者、あるいは民間組織のリーダーとしての高度専門職業人等である。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力：未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	基礎科目、専門基礎科目、専門科目、博士論文作成、学会発表など
2. マネジメント能力：俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	他研究室と共同の基礎科目、専門基礎科目、達成度自己点検など
3. コミュニケーション能力：学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるとともに、質問に的確に答えることができるか	基礎科目、専門基礎科目、専門科目、学会発表、ポスター発表など
4. リーダーシップ力：リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	他研究室と共同の基礎科目、専門基礎科目、大学院共通科目、TA・TF 経験、プロジェクトの参加経験など
5. 国際性：国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	教育学演習、大学院共通科目（国際性養成科目群 ）、国際的な活動を伴う科目、国外での活動経験、外国人（留学生を含む）との共同研究、TOEIC 得点、国際会議発表、英語論文など
6. 研究力：教育学分野における最新の専門知識に基づいて本質的な研究課題を設定して、自立して研究計画を遂行できる能力	① 教育学の先行研究を踏まえて、本質的な研究課題を設定できるか ② 設定した課題にふさわしい研究方法を用い、学術的な研究成果を生み出しているか	教育学演習、各研究法、博士論文中間研究発表会、学会発表など
7. 専門知識：教育学分野における先端的かつ高度な専門知識と運用能力	① 専攻する分野の教育学的専門知識に裏付けられた研究成果があるか ② 関連する教育諸科学の専門知識を積極的に吸収しようとする意欲があるか	教育学演習、各研究法、投稿形式論文発表会、博士論文中間研究発表会など
8. 倫理観：教育学分野の研究者にふさわしい倫理観と倫理的知識、および専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識	① 教育学の分野の研究者としてふさわしい倫理観と倫理的知識を有しているか ② 専攻する特定分野に関する倫理観と倫理的志知己を有しているか	教育学演習、各研究法、投稿形式論文発表会など

9. 国際性：国際的な視野で教育課題を捉え、その解決策を国内外に発信できる能力	① 国内外の教育課題を的確に把握し、国際的な視野で研究課題を設定できるか ② 研究成果を国内外に積極的に発信しようとしているか	教育学演習、各研究法、国外の大学との交流活動、国際会議発表、英語論文など

学位論文に係る評価の基準

1. 関連分野の国内外の研究動向及び先行研究の把握に基づいて、教育学分野における当該研究の意義や位置づけが明確に述べられていること。
2. 教育学分野の発展に寄与するオリジナルな研究成果が、学術論文として発表するのにふさわしい量含まれていること。
3. 研究公正についての十分な知識に基づき、研究結果の信頼性が十分に検証されていること。
4. 研究結果に対する考察が妥当であるとともに、結論が客観的な根拠に基づいていること。
5. 研究の背景、目的、方法、結果、考察、結論等が、教育学分野の博士論文にふさわしい形式にまとめてあること。

なお、学位論文の審査を願い出ようとする者は、事前に学位プログラムにおける予備審査に合格しなければならない。論文審査委員は、3名以上5名以内から構成される。審査委員のうち少なくとも1名は申請者が所属する学位プログラム以外の者（あるいは教員）から選出するものとする。

カリキュラム・ポリシー

博士前期課程修了までに教育学の専門的知識を習得した上で進学してきた院生、修士学位をもって大学や小・中・高等学校等で教鞭をとりながら教育学研究に取り組んできた現職教員院生、教育行政や民間組織（企業、NPO 等）等で教育関係の業務を遂行しながら研究的関心を高めてきた社会人院生等に対して、専門分野の研究に必要な研究力量を高め、研究法を習熟させることをねらいとして教育課程を編成する。ディプロマ・ポリシーに掲げた能力の修得を系統的かつ効果的におこなうため、授業科目を「共通基礎科目」、「共通選択科目」、「専門科目」によって構成して教育課程を編成する。

教育課程の編成方針	・「共通基礎科目」により、教育基礎学および学校教育学の全領域にわたる教育学の教養を修得し、教育学研究の発展に対する貢献意欲を身につける。 ・「共通選択科目」により、共同研究の企画・推進に必要なリーダーシップ、海外研究者と学術的討議を円滑に行うためのコミュニケーション能力、適切な文献資料を探索して読解し的確に考察することのできる能力を身につける。 ・「専門科目」では、各自の研究テーマに対応した専門分野の教員から論文指導を受けることで、専門的知識を深め、研究倫理的問題への見識を養い、専門的学会等で研究成果を発表して討議するための様々な能力を身につける。 ・これらの課程履修および学外での研究活動等への参加を通じて、自立した研究者としての能力とともに、地球規模の教育課題を幅広い視野で捉え、その解決策方策を国際的視野で考察できる能力を身につける。
学修の方法・プロセス	1 年次は共通基礎科目を履修するとともに、各自の研究テーマに応じた研究法の履修により、専門分野の論文指導を受ける。1 年次及び 2 年次においては、個別の論文指導と併行して、共通基礎科目及び共通選択科目の履修により、教育学の教養とその研究方法についても習得する。なお、社会人特別選抜による入学者には、フィールドワーク研究の演習を設け、その学習ニーズに対応する。1 年次の秋学期からは投稿形式論文発表会において、専門分野以外の教員からの指導も受ける形で論文の作成方法を学ぶ。2 年次後期の博士論文中間発表会において博士論文の構想を発表し、3 年次において研究指導委員会のもとで複数の教員から博士論文の指導を受ける。なお、特に教科教育学の領域では教科専門と教育学の統合が求められることから、他の学術院に設置される学位プログラムで開設される科目についても積極的に履修するよう指導する。
学修成果の評価	・個別の科目において、各自の教育学の基礎理解、研究方法、論文の構想等の評価を行う。 ・投稿形式論文発表会では、投稿先の学会に合わせた指導と評価を行う。 ・博士論文中間発表会では、博士論文の構想について指導、評価を行う。 ・研究指導委員会では博士論文の構想、内容、水準等について指導、評価を行う。 ・予備審査会、学位論文審査会は公開で行い、適正な審査を行う。

アドミッション・ポリシー

求める人材	教育の現実的問題と本質的な問題に深い関心を抱き、博士前期課程において教育学の基礎的知識並びに研究方法の基礎を習得し、明確な研究課題をもって、主体的かつ意欲的に研究する姿勢のある人材を求める。教育学の学問的知見に基づいて、幅広い視野と深い専門的知識をもって様々な教育課題を解決しようとして国内外の専門学会で活躍できる素養をもった人材を求める。
入学者選抜方針	入試委員会による管轄の下、年間 2 回（10 月期・2 月期）に分けて選抜を行う。選抜方法は、修士論文（または修士論文に代わる論文）の内容についての審査、及び本学位プログラムでの研究計画に基づく口述試験による。また、募集人員を定めて社会人特別選抜を実施する。